

▼編集後記

かつて夏目漱石は、生徒が「I LOVE YOU」の一文を「我君を愛す」と訳したのを聞き、日本人はそんなことは言わない。「月がきれいですね」とでも言っておきなさい、とアドバイスしたとされています。言葉の裏に隠された奥ゆかしさは、日本語の魅力の一部です。現代ではストレートに感情を表現する人が増えてきたかもしれませんが、言葉を慎む文化や空気を読むことが重視される日本。向かい合って未来を語り合いながら、こんな素敵な言葉を交わすことができたらいいですね。<K.T>

【“緑の流域治水”の見える化(出前授業)】

「緑の流域治水」を広く住民の皆様に理解をいただき、流域全体での取組みにつなげていくため、小中学校や高校などへの出前授業を実施しています。人吉市では、6月の第一中学校、7月の人吉東小学校に続き、9月28日には、人吉高校の1年生全員(270名)と教職員を対象とした出前授業が実施されました。

生徒からは、「球磨川流域の地形や地域の特徴を学ぶことが出来た」「雨庭など、自分たちにできる対策から取り組みたい」などの感想がありました。



人吉高校での出前授業の様子

※以下の動画は、誰でも分かりやすく理解できるよう「緑の流域治水」の取組みがまとめられています。是非、ご覧ください。

動画(YouTubeで配信中)

地形の特徴

洪水発生メカニズム

You Tube掲載動画のQRコード

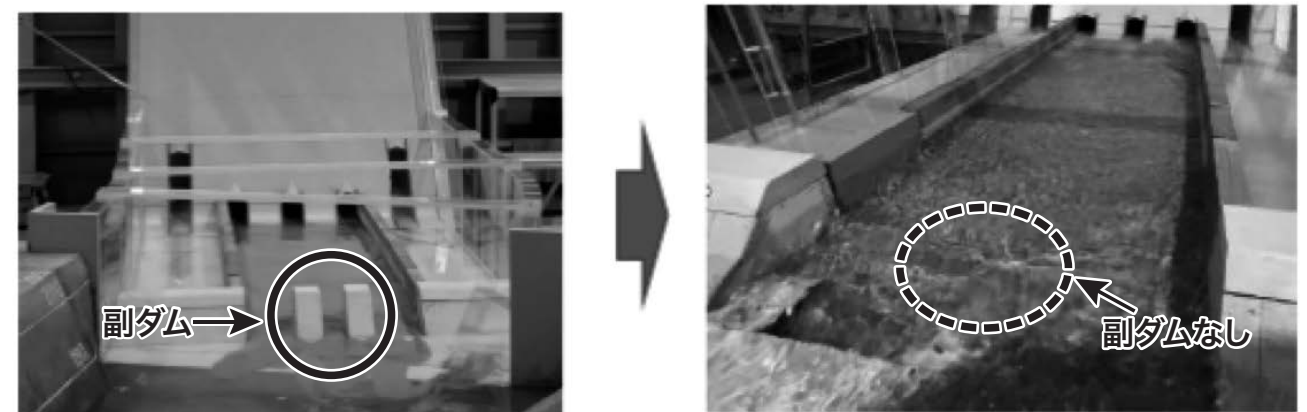
全体統合版	分割版 (全体統合版を3パートに分割)		
	①球磨川の地形の特徴	②洪水発生メカニズム	③緑の流域治水の取組み
[6分57秒]	[2分2秒]	[2分27秒]	[2分28秒]

「緑の流域治水」の主な取組状況 【新たな流水型ダムを進捗状況】

8月、9月に続き、10月10日に、国の「第9回流水型ダム環境保全対策検討委員会(以下「検討委員会」)」が開催され、ダムの施設等設計や試験湛水手法の工夫、環境影響評価(案)について審議されました。

＜ダムの施設等設計の検討状況(一例)＞

ダムからの放流水の勢いを弱めるための「副ダム」について、設置しない場合でも、放流水の流速に明確な差がないことが確認できたことから、「副ダム」を設置しない構造にするなど、より自然の環境に近い構造に向けた検討が進められています。



【第9回流水型ダム環境保全対策検討委員会(R5.10.10)資料抜粋・一部加工】

今後、更に検討委員会の審議を重ね、国において、環境影響評価の結果等を示す環境影響評価準備レポートが公表され、関係市町村で説明会等が開催される予定です。

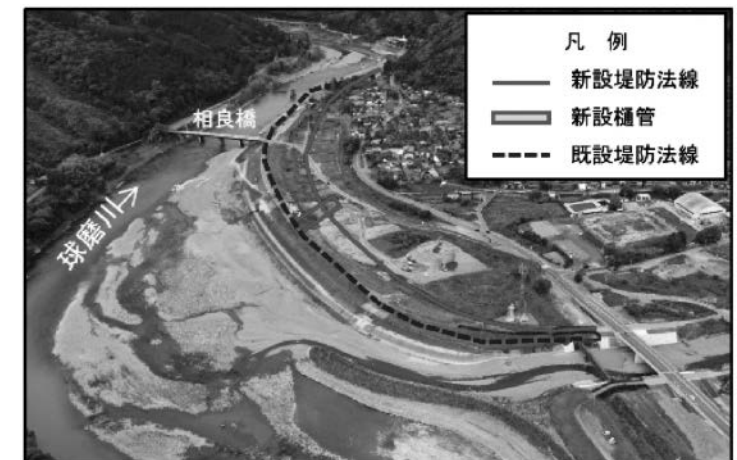
【球磨川水系の治水対策の進捗状況】

8月26日に相良村柳瀬地区で球磨川水系で初となる「遊水地事業」が着工され、9月10日には球磨村渡地区で「引堤事業」が着工されました。

また、球磨村神瀬地区に続き、8月26日に芦北町、9月10日には八代市坂本町において、「宅地かさ上げ事業」や「輪中堤事業」が順次着工するなど、着実に球磨川流域の安全・安心の確保に向けた対策が進んでいます。



相良村柳瀬地区遊水地事業予定地



球磨村渡地区引堤事業予定地

《活動報告》

国宝記念館落成式

青井阿蘇神社に世界的な建築家である隈研吾氏が設計した「青井の杜国宝記念館」が完成しました。これからの時代を見守る復興のシンボルがいよいよ11月にグランドオープンになります。皆さんぜひ足をお運び下さい。



人吉球磨復興 高校生インターンシッププログラム

一般社団法人フミダスが企画・運営する「人吉球磨復興 高校生インターンシッププログラム」のトークライブに登壇しました。このプログラムは人吉球磨4高校の生徒が地元の企業に訪問し高校生の目線で企業の課題解決を提案するものです。これからの時代を担う若者を地域で育てていくことが重要であり、若者目線でのまちづくりにも取り組んでいきます。

